

光といのち

第146号

—春彼岸—

2024年3月10日発行

発行所

真宗大谷派勝善寺

〒299-2214

千葉県南房総市二部1344-2

電話 0470-57-2657

FAX 0470-57-2290

メール info@syozenji.or.jp

URL <http://syozenji.or.jp/>

住職 釋孝昌（井上孝昌）

豊替えをしました！

ここは、みな様がお座りになり、
仏教の感覚と発想を身につける場所。
それは、みな様の人生が豊に成ること。
寺は、みな様のための場所です。

諸根悦予
姿色清浄
光顔巍巍

題字下は、親鸞聖人が「真実の教「浄土真宗」とする「大無量寿経」を説く、お釈迦様のお容姿です。「諸根悦予し姿色清浄にして光顔巍巍とまします。」と読みます。

「諸根」は、眼・耳・鼻・舌・身・意、つまり身体中です。「悦予」は悦びにあふれている。「姿色清浄」は、そのことだけに集中し雑念が微塵も無いお容姿。「光顔巍巍」は、光り輝くお顔が厳かであることです。

イメージできますか？実は、毎日報道される大谷翔平選手に、それを感じたのです。そして同時に、すでに亡くなられた先達の二十年以上前のお話が聞こえてきました。

「病院のベッドに寝たきりである老人の部屋に、毎日お昼過ぎになると看護師が用も無いのに来るのだそうです。で、何をしているかという、老人の足元にうつ伏して寝ている。サボっているんです。そこに、コツコツコツと誰かの近づいてくる足音が聞こえると、その老人が渾身の力で足を動かし、看護師に知らせるのだそうです。『皆さ

ん、その老人を想像してみてください。ださい」と。

世間の見方では、全世界の衆目を集めている大谷選手と病院のベッドに寝たきりの老人では、雲泥の差。ところが仏教の見方では、平等です。今できることに一所懸命になっている。

「もう一つの価値観を知らされたら 生きる世界の風光が一変した」ではじまる見開きページの池田勇諦先生の詩を味わってください。

「もう一つの価値観」とは、仏教の価値観です。ただ一口に「仏教」と言っても、人それぞれで違いがあります。この「仏教」は、鏡のように自分を映し出す「仏さまの言葉（法語）」です。

これに自分を知らされると、じり貧だと思い込んでいた人生が、なんと大谷選手のように輝いているではありませんか！

春彼岸会

三月二十日（水）春分の日
十時～十一時半

Zoomで配信します。ご希望の方はメールで「お参りします」とお申し出ください。

もう一つの価値観を
知らされたら
生きる世界の風光が
一変した

自我の眼では
見えなかった
諸々の御因縁が
見えてきた

世界とわたしを
成り立たせている
根っここのいのちが
見えてきた

いかに根っここの
いのちに闇く
小さな自我意識を
生きる尺度と
していることが
見えてきた

だが、それは
見え続けていく
ものではなかった
何か事が起こると
すぐ見えなくなる
でも、うれしい
見えなくなるからこそ
聞き直して行けと
背中を押される
なむあみだぶつ

池田勇諦

おのれ
己ほど頼みにならぬものはない



夏目漱石の門下に森田草平とい
う書生がおられました。その森
田草平に送った書簡がございます。
『漱石全集』の「書簡集」の中に
収まっています。非常に短い手紙
ですが、「天下に己以外のものを
信頼するより果敢なきはあらず。」

（『漱石全集』第二三巻 四六六〜
四六七）

人生経験を少しでもさせてもら
ってきた人間であれば、それはそ
のとおりだと。天下に己以外のも
のをあてにする。それほど儚いこ
とはない。あてにならないことは
ない。それはわかる。そうして、
そこで何を口にするかという、と
「だから人生は、頼りになるのは
自分だけだ」というのです。これ
が決まり文句です。壮年の方々と
話しますと、必ずといっていいほ
ど出ることです。「私は正直言っ
て無神論者だけど、私の生きるモ
ットーはこの世で信頼できるのは自

分だけだと思っている。女房もあ
てにならない。子どももあてにな
らない。あてになるのは自分だけ、
信じられるのは自分だけ」とお
っしゃる。それで「あなたは自分
というものを信仰していच्छや
るんですね」と私は言うのですが。
私たちはみんな自分教の信者です。
だからその意味では無信仰者とい
うのはこの世にはいません。神社
仏閣に行かなくても、そんなこと
はどうでもいい。自分を信仰して
いるのです。自分の信仰ですから
すごいものです。全部を自分の意
の如くしようと頑張っています。
そして信じられるのは自分だけだ
と言っています。

ところが、夏目漱石は違います。
「しかも己れほど頼みにならぬも
のはない。どうするのがよいか。
森田君、君この問題を考えた事が
ありますか。」 こういう問いかけ
で結ばれている。極めて短い手紙
ですが、私はこれを読むと、親鸞
聖人の教えが問いかけてくださっ
ているものの中身を、これほど平
易な言葉で表してあるというのは、
本当にすごいと思います。それこ
そ専門語を使わないで、平易な言
葉で神髄が語られているという印
象です。

「天下に己れ以外のものを信頼す
るよりはかなきはあらず。しかも己
れほど頼みにならぬものはない」。

（『教行信証』に学ぶ（二） 池田勇諦 真宗
大谷派東京教区より）

上の池田勇諦先生の詩は、去る二月四日桑名市西恩寺様の「同朋講座」で配付
されたものです。法友が送ってくれました。一読し、これが親鸞聖人が歩まれた
仏道、これが真宗門徒の聞法生活だと感動し、また同時に十六年ほど前に先生か
らいただいた問いがよみがえりました。今度は私が、皆さんにそれを問います。
天下に己れ以外のものを信頼するよりはかなきはあらず。しかも己れほど頼みになら
ぬものはない。どうするのがよいか。皆さん、この問題を考えたことはありますか。

役員会報告

一月十三日(土) 庫裡にて、役員会を開きました。

代表責任役員	住職井上孝昌氏
責任役員	田村晋一氏
総代	田中昭一氏
同	足達崇氏
同	川名喜昭氏
総代理	朝倉和利氏
同	能重勉氏
同	明石義久氏
同	川名利幸氏
※責任役員 副住職井上泰之は欠席	

次期総代選定

田中昭一氏 足達 崇氏
能重 勉氏
任期 二〇二四年三月三十一日
〜二〇二七年三月三十日

次期千葉組門徒会役員選定

足達 崇氏 黒川 敦子氏
渡邊 秀子氏
任期 二〇二四年三月十日
〜二〇二七年三月九日

顧問設置と推戴

川名 喜昭 氏を顧問に推戴する。

「仏法聴聞が人生の一大事」と、みな様が思うようになってくださるよう、共に寺を運営してまいります。

勝善寺様へ

平成二年に私共二人は此のサンラポールに入居して初めて勝善寺に訪れ先代の御住職にお目にかかりました。
長い間の付き合いとなり亡き主人の時もお世話になりました。
此のお金は、私からの少しばかりの気持ちです。お寺のお役に使っていただければ幸いです。

金 貳百萬圓

瀬戸内 チエ子



瀬戸内チエ子氏は、鹿児島県出身のご門徒です。たびたび京都東本願寺を訪れ、法要にお参りされています。

仏法興隆のために役立てます。



この部屋は「御簾の間」と呼ばれ、報恩講の講師・僧侶の控え室として使っています。
本堂五十六畳と御簾の間十四畳をタフリングという新素材の畳にしました。
貯まっていた報恩講の剰余金などから支出いたします。
床の間の白い襟巻き(帽子)をした親鸞聖人の掛け軸は、熊皮の御影と呼ばれます。(模造品)
室町時代の一休禅師は、「襟巻きのあったかそうな黒坊主こやつが法は天下一なり」と、親鸞聖人を讃えています。

「ご予約ください」

春彼岸会

春分の日

3月20日(水) 10時〜11時30分

仏教を聞き語り合う会兼花まつり

4月7日(日) 13時半〜16時

親鸞教室

4月24日(水) 13時半〜16時

仏教を聞き語り合う会

5月12日(日) 13時半〜16時

親鸞教室 中佐久間講

5月23日(木) 13時半〜16時

奉仕作業

6月9日(日) 8時30分〜

勝善寺聞法会

6月9日(日) 13時半〜16時

八日講十日講

6月10日(月) 9時〜11時

仏教を聞き語り合う会

7月21日(日) 13時半〜16時

孟蘭盆会

8月10日(土) 10時〜11時30分

※八日講十日講・奉仕作業以外は、ズーム配信します。